繪本江戸土産　六編

~~110~~
356

211

1.00
Hiroshige

静坊樗良住

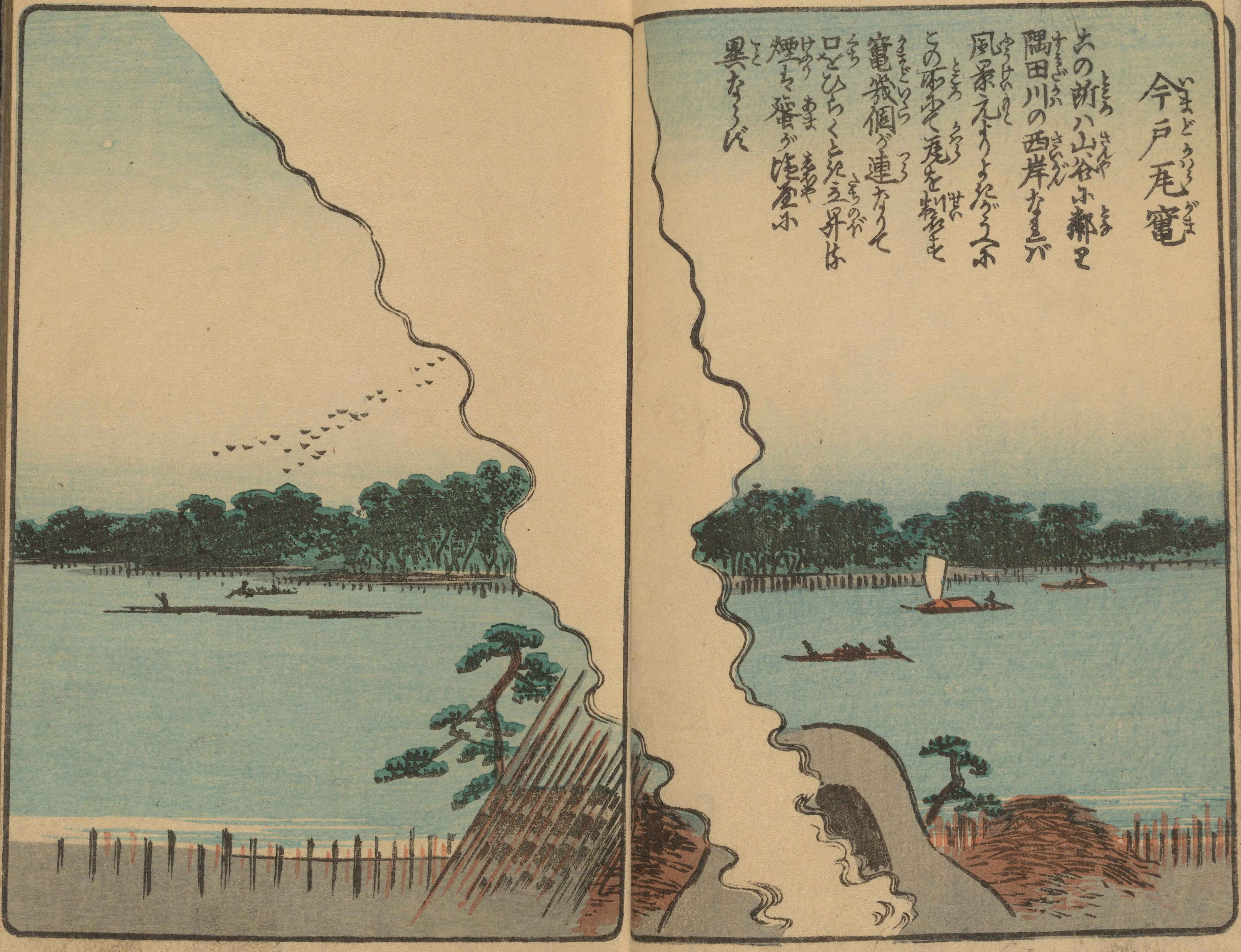
淺色咄跡

画本江戸みやけ

六編

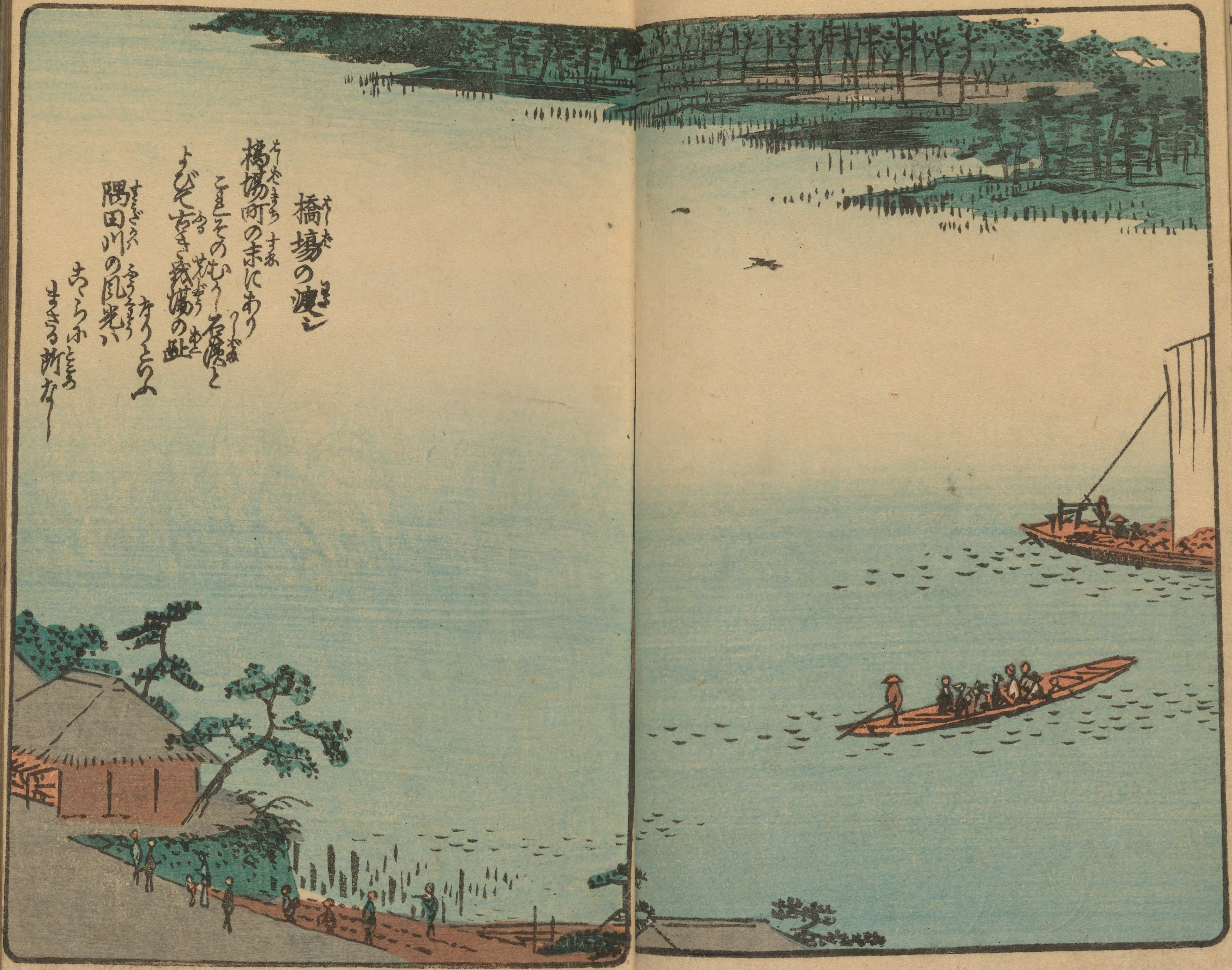
廣重筆

金幸堂梓



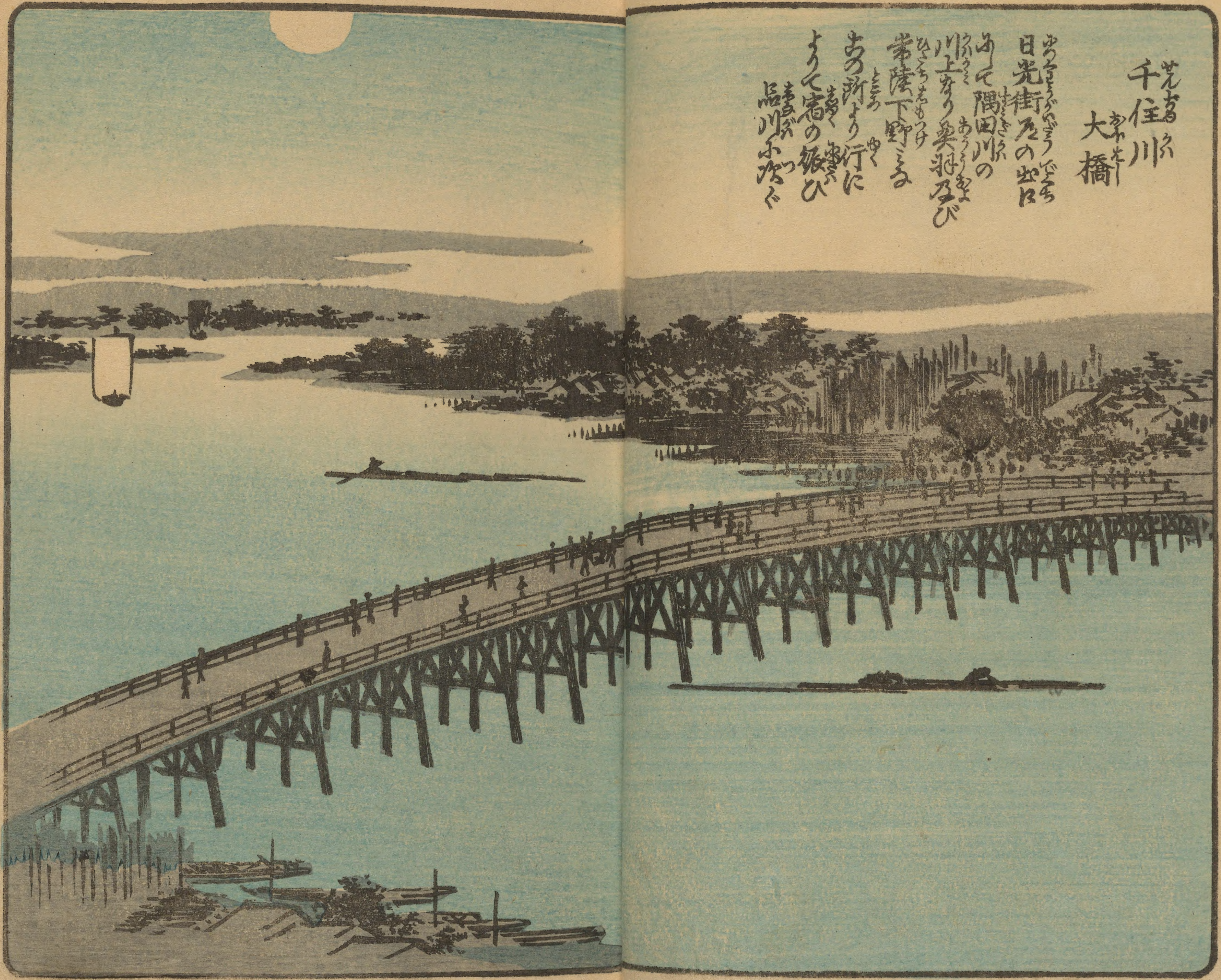
今戸瓦竈

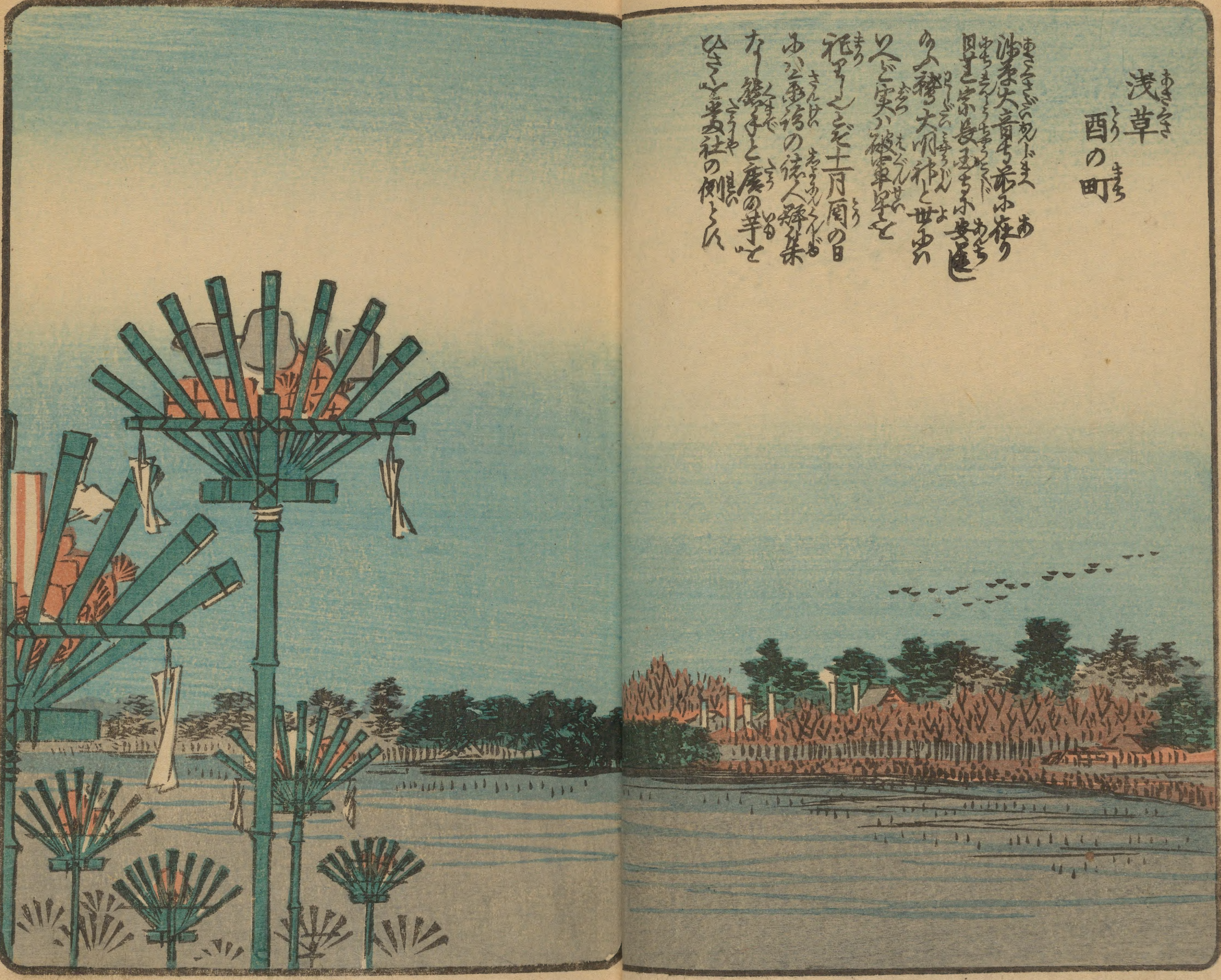
此の所ハ山谷ふ鄰て
隅田川の西岸なれバ
風景えよりよろしきがうへふ
この所ふて瓦を製して
竈幾個が連なりて
口をひらくと見え立昇は
煙もて蜑が塩屋ふ
異ならじ



橋場の渡し

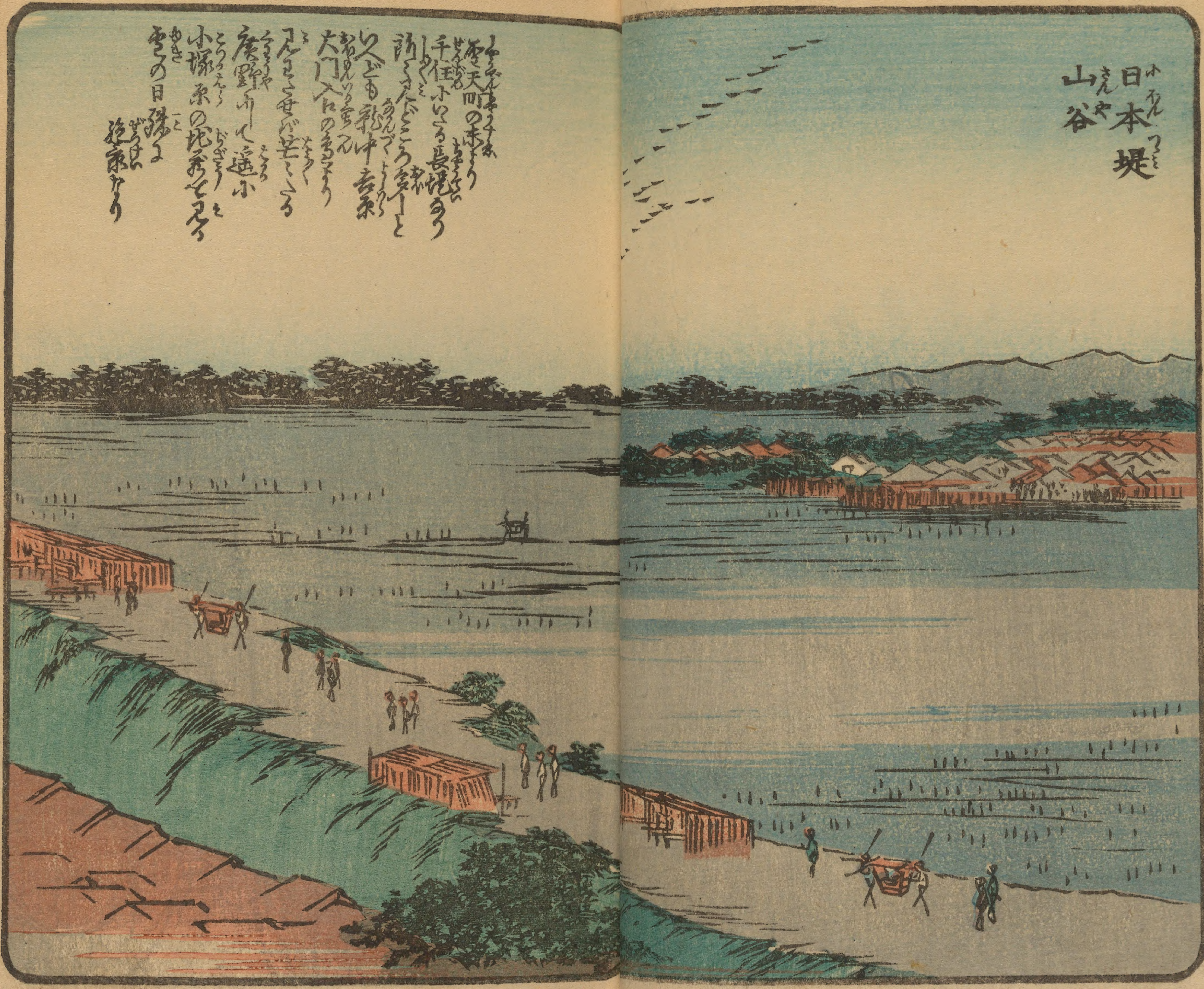
橋場町の末にあり
これぞそのむかし石濱と
よびし古戦場の址ありとふ
隅田川の風光は
あらゆるところにまさる所なり


千住川大橋
日光街道の出口にして隅田川の川上なり奥羽及び常陸下野え此所より行によりて宿の賑ひ品川に次ぐ



浅草酉の町

浅草大音寺前に在り中尊は日蓮上人の安置の鷲大明神と世にいへど実は破軍星を祀るとぞ十一月酉の日には参詣の諸人群集なし熊手と唐の芋を以てひさぐ事当社の例とぞ


日本堤
山谷
聖天町の末より
千住にいたる長堤あり
いへども新吉原
大門入口のあたりより
廣野にして遠く
小塚原の地及び
雪の日殊に絶景なり

衣紋坂
見帰柳

新吉原
仲の町
植櫻

其二

金龍山奥山裏田圃

浅草寺奥山より裏手の方を總て田圃といふ耕作の處にして晝は蛙の聲を聞稻葉風にもまるゝ緑の海とし夜は四方の螢飛ありて晴夜の星とあやまつ冬月雪げの景色春秋とも四時のながめ少なからず殊更雪中の勝地といふべし

猿若町

むかし堺町葺屋町及び木挽町に在し三座の芝居天保十二年より聖天町の北に移され猿若町と号して三町あり一丁め中村勘三郎二丁め市村羽左衛門三丁め河原崎権之助此外操芝居ありて早春より年の尾に至るまで六の芝居の賑ひ日毎に人の山をなし一樽の太鼓の音賑ひを[illegible]

金龍山観音堂
奥山

其二 同所
辨天山

其三 雷神門
金龍山浅草寺の
総門なり左右に風雷
の二神を安置す
因て俗に
雷門
といふ

其四
雷神門前
廣小路
並木茶屋

右雷神門の通りを
並木といひ西の方を廣き
所を廣小路といふ並木ハ
左右ニ廣小路ハ片側
料理や軒をならべて
鰻ひやうたんどぜう
この和田川菜めし田楽
なとの名物あり
月毎の十七日より廿三日
ふいつり時々の花を
並べ見せ花市とて
夏の夜ハいつそう
涼みのうけ床机と
かまへ其の外
雷門の挑灯の
誠に
東叡の
一寿観

浅草御門跡
観音より西の方にあり
開山教如上人なり
十一月廿一日より廿八日まで
東都第一の大伽藍なり
新堀

柳原 河岸通

筋違御門より西の方
と云ふ神田川とて
江戸川の末流にして
大川へ出るまで川岸
左右に競ひ且つ春に
はるまで櫓櫂の音と
川をきはめ賑はしき地なり

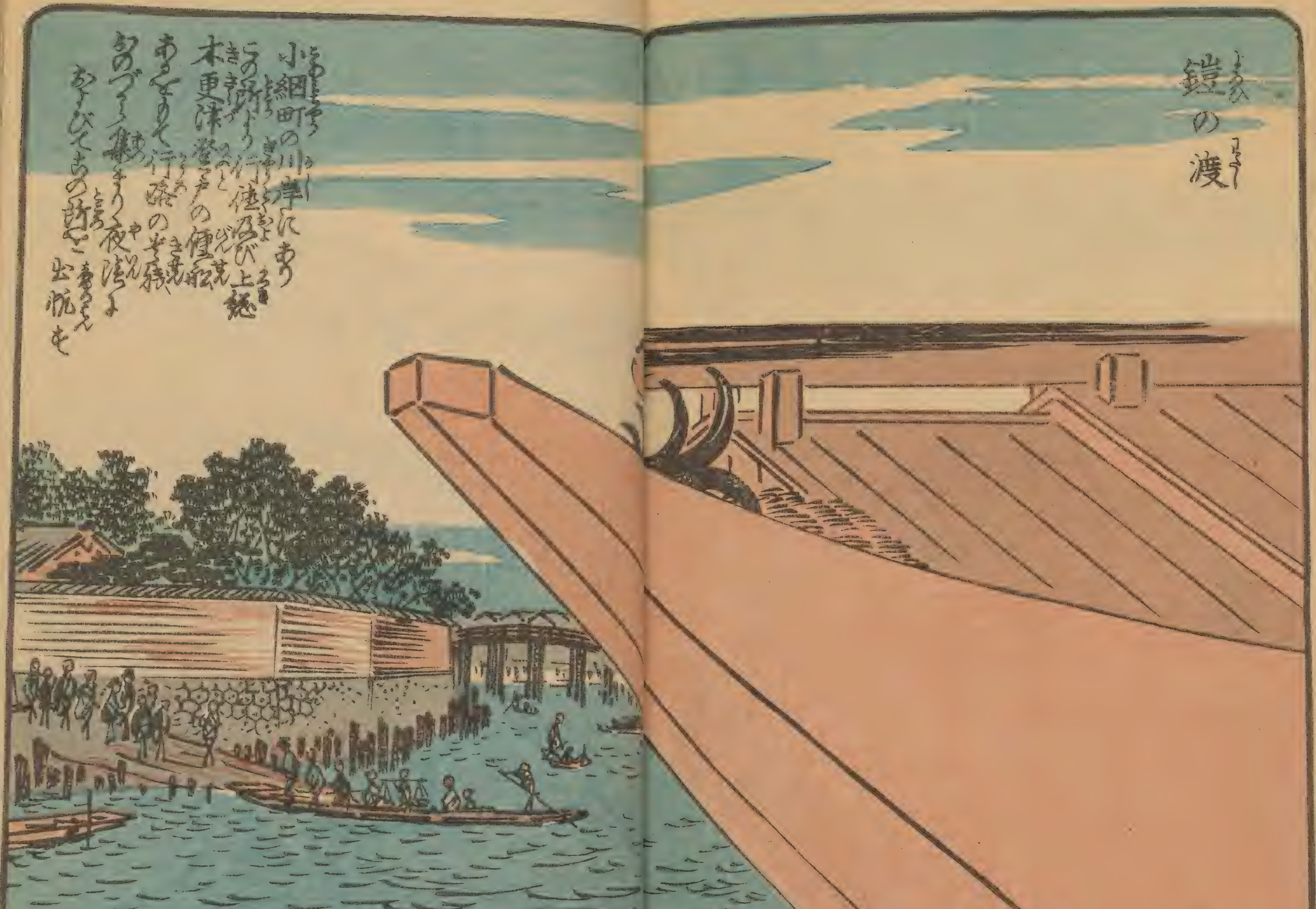
馬喰町
初音馬場
馬喰町二丁めと
三丁目の間の
横町北のかたに
火見あり是は
つゞきて馬場
あり是を初音
の馬場といふ
馬場の端に柳
数株を植は
て常に馬術の
稽古をなせり
柳原封疆

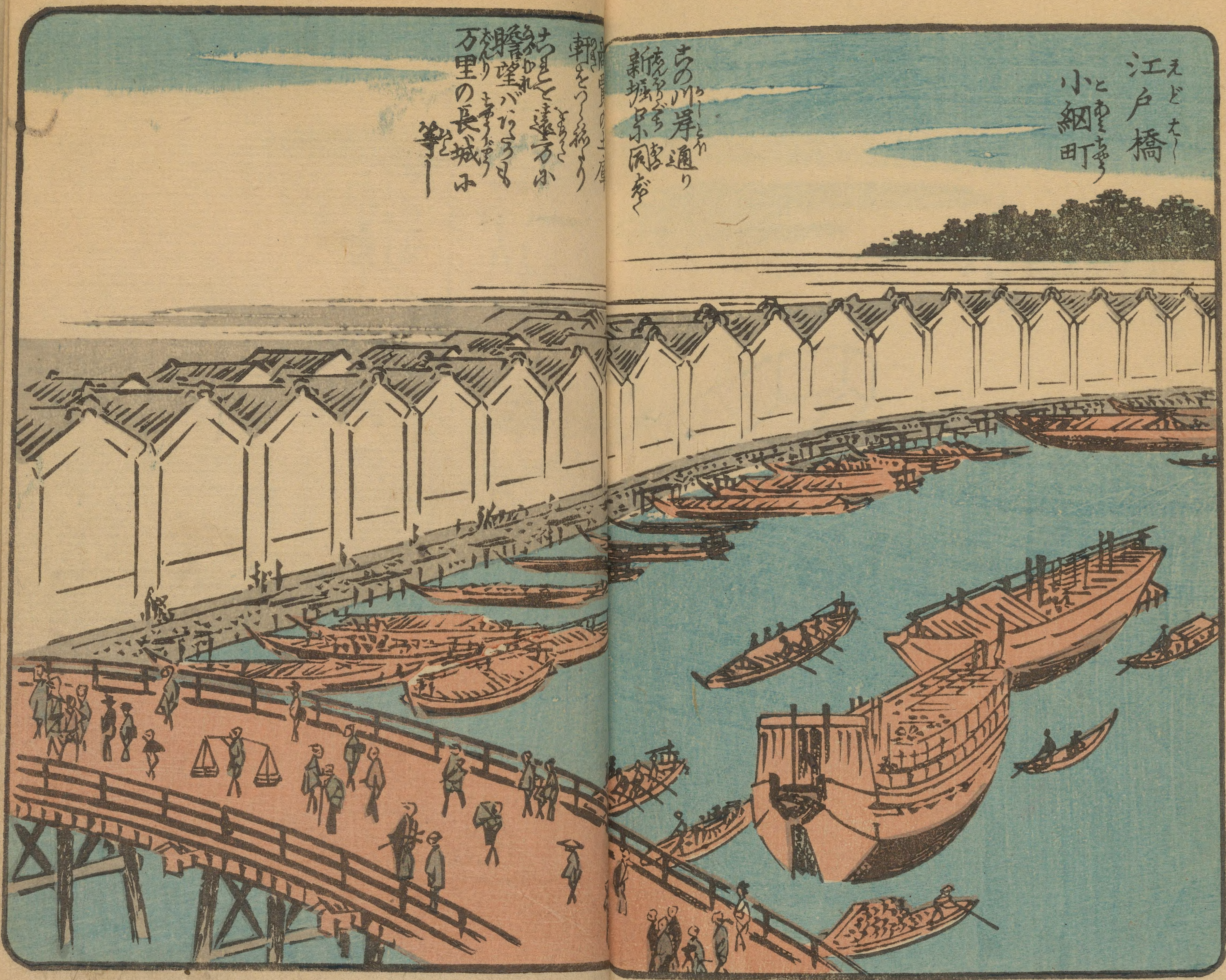
両國柳橋
料理屋會席
神田川の末流
大川へ出る方に
架るを柳橋といふ
此のあたり料理や多く
殊に岸辺に近くして
常にも賑ひ人混て
夏月の納涼また
両川の
漁船多くこの所
より出る

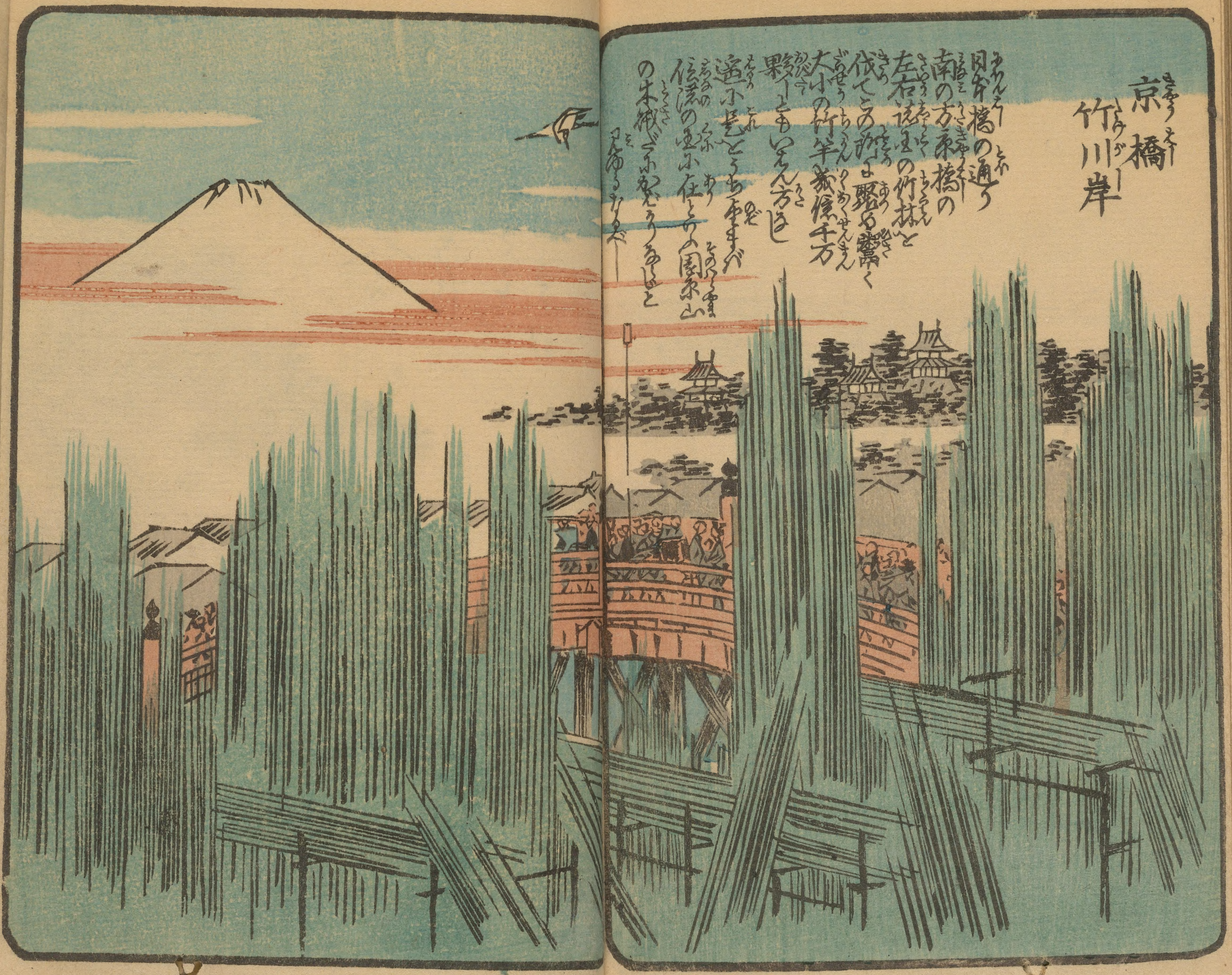
其二
向両國茶屋
元柳橋
濱町

新川 新堀 霊岸島

此所ハ鉄炮洲の
海より続きの入江
小川の如く両岸の土蔵
軒を連ね総て商賈
売買繁昌の
地なり
風流雅なくされども
また[illegible]


鎧の渡
小網町の川岸にあり
この所より行徳及び上総
木更津登戸の便船
あまたありて行旅の旅客
おのづから集まり夜泊よ
あそびてこの所に出帆を


江戸橋
小網町
此の川岸通り
新堀京橋迄
商賈の土庫
軒をつらねより
ちらほらと遠方に
瞻望すれバさながら
万里の長城に
等し


京橋
竹川岸
日本橋の通り
南の方京橋の
左右諸国の竹林を
伐てこの所に聚め鬻く
大小の竹竿数億千万
夥しといへ万方邑
遙に是をもとめまかば
信濃の国に在との関東山
の木織ぞなきやうなりと
又備るなるべし

東都書林

日本橋通二丁目　須原屋新兵衛
京橋弥左エ門町　大島屋傳右エ門
神田鍛冶町二丁目　花房屋兵蔵
堺町　大坂屋富三郎
新革屋町　亀屋文蔵
芝神明前　若狭屋與市
下谷池ノ端　上州屋金蔵
四谷傳馬町　濃州屋安兵衛
麹町七丁目　尾張屋清七
四日市　上總屋惣兵衛
小傳馬町一丁目　山城屋平助
馬喰町二丁目　菊屋幸三郎板

松屋 與助

金[illegible]屋